
遊戯王 転生者の生きる道

流星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 転生者の生きる道

【NZコード】

N4279W

【作者名】

流星

【あらすじ】

突然トラックが突っ込んで死んでしまった主人公。
そんな主人公が神によって遊戯王の世界に転生し、原作に介入する。
(これはアニメを元にしています。)

プロローグ

視点????

????「ブラック・マジシャン・ヒブラック・マジシャン・ガール
でプレイヤーにダイレクトアタック！！」

????「だからガチデッキはやめる————！」

????「よし、つてもうこんな時間だ。はやく帰らないと。」

はじめまして、星井遊佳です。デュエルが大好きな中学生1年生です。

つて誰に言ってんだろう。それよりは早く帰る。

少し歩くと、眺めの良い場所があつた。

遊佳「やつぱりここが一番落ちつくな。」

そう呟くと同時に後ろからトラックの音がきこえた。

そしたら突然意識が途切れてしまった。

プロローグ（後書き）

はじめまして流星です。
初めての投稿なので感想やアドバイスをお願いします。

第1話 なんだ転生？（前書き）

いんじあは。

今回まへるコトハあります。

第1話 なんで転生？

視点遊佳

遊佳「こ、ここは？」

ここは、何処かの空間？

「あ、あの～。」

遊佳「お前は誰だ、ここは何処だ、あたしはどうなったの、そしてここから今すぐ出して、そして一度とあたしの目の前に出てこないで。」

「一気に質問しないでください。そして最後のはなんなんですか！！」

遊佳「そのままの意味なんだけど。」

一体この馬鹿はなんなんだ。

「誰が馬鹿ですか！誰が！！」

遊佳「あんただよ。それに誰だよあんた。いいかげんに名乗りなさいよ。」

「私は、神です。」

遊佳「P.I もしもし、警察ですか？今日の前に神と名乗る変人が「わあわあああ――――――！何してるんですか！P.I 「チツ！」

神？「何舌打ちしてるんですか！それに私は、本物の神です。」

本当にこのひた「神です！！！」この自称神野郎はなんなんだ。

神？「とりあえず本題に入りますね。」

遊佳「本題つって、用件は何？5秒以内に言つて。」

神？「ううつ、5秒以内は無理です！」

遊佳「とりあえず何でもいいからはやく用件を言いなさいよ。」

神？「それじゃあ、单刀直入に言います。あなたはこひらの手違いで死んでしました。」

遊佳「ふうん。で？」

神？「何か反応がすぐ薄い気がするんですけど。」

遊佳「別に。用件はそれだけ？」

はやく帰つてお遊びデッキを作りたいな。そして、フフフ…。

神? 何か変な事を考へてゐるみたいですけど、あなたは転生する
ので家には帰れませんよ。」

遊佳「えっ、家に帰れないの？」

神? 一 なんでもそつちに反応するんですか!! 普通は転生って事に反

「わかつたよ。転生先や、特典とか付けてくれるよね。」

神？「はい、良いですよ。何処でもどうぞ。」

遊佳 それじゃあ勿論遊戯王の世界でね時代は、DM。特典は、シ

力、あと、チート能力も付けてね。

神？「分かりました。では、早速行つてきて下さいね。」

遊佳「えつ、ちよつとまつてよ。それでは、頑張つて下さいね。」

そこで意識が切れてしまつた。

第1話 なんで転生？（後書き）

次回は『デュエル』があります。
感想などよろしくお願ひします。

第2話 早速トコホル！（前書き）

今回は「トコホル」があります。

あと、書き方を少し変えてみました。

第2話 早速デュエル！

視点遊佳

遊佳「こ、ここは。」

はい、2度目のここはです。まあ、ボケはいいけど、

遊佳「マジでやばいかもな。」

場所が分からないうちから、どうしようもないや。

？？？「おい、そこガキ！」

振り向くと……誰だろ、知らない人が声をかけてきた。

？？？「俺とデュエルしろ。」

遊佳「え？」

何でこうなったのかな。まず何で腕にデュエルディスクが付いているわけ。

？？？「さつあと構えろー。」

とつあえずフルボッコンしよう、うん。

「デュエルー。」

？？？「俺の先行ドロー、メカ・ハンターを召喚し、デーモンの斧を装備！」

さあ、これで攻撃力は2850だ！俺はこれでターンエンドだ！」

たかが攻撃力2850で何も伏せないとは、こいつ、雑魚だな。でも、いつの間にか集まつた人達があの子終わつたとか、かわいそうになどとほざいている。

本当になんなんだよ。

遊佳「あたしのターンドロー、天使の施しを発動、3枚ドローし、2枚捨てる。」

雑魚「おいおい、しょっぱなから手札交換かよ。」

煩いな、この雑魚が。

遊佳「墓地の連弾の魔術師とエクストラ・ヴェーラーを除外し、カオス・ソーサラーを特殊召喚。」

雑魚「何つ！まさか天使の施しの時に。」

遊佳「そつ、そしてフォーチュン・レディー・ライティーを召喚。」

雑魚「へんつ、やっぱり雑魚モンスターだな！」

遊佳「あまり舐めない方がいいよ。カオス・ソーサラーの効果発動、ライティーを除外。」

雑魚「何をするかと思えば、やっぱりお子ちゃんまだ！」「ライティ

ーの効果発動。」何！。」

遊佳「デッキから フォーチュン・レディー・ファイリー を特殊召喚。」

雑魚「なんだ、大したことじゃ ハ「ファイリーの効果発動。」何！」

いちいち反応がすごいウザインだけど。

遊佳「このモンスターが「フォーチュンレディー」と名の付いたモンスターによって特殊召喚されたとき相手モンスターを破壊し、その攻撃力分のダメージを与える。」

雑魚「なんだと！！」

雑魚 LP1150

遊佳「手札を1枚捨て クイック・シンクロン を特殊召喚し、レベルを1つ上げ、墓地の レベル・ステイラーー を特殊召喚。レベル1の レベル・ステイラーー にレベル4の クイック・シンクロン をチューニング。」

「「「チューニング！？」」「

遊佳「5つの星の力が集まりし時新たな力となる、シンクロ召喚いでよ ジャンク・ウォリアー 」。

？？？「な、なんだと！？」

遊佳子「さらば」、一重召喚を発動。効果により、もう一度通常召喚が行える。サニー・ピクシーを召喚、レベル6のカオス・ソーサラーにレベル1のサニー・ピクシーをチューニング。

雑魚「まだあんのかよ。」

遊佳「7つの星の光集まるとき新たな希望の光となる、シンクロ召喚輝け エンシェント・フェアリー・ドラゴン。さらに、レベルを1つ下げ レベル・ステイーラー を特殊召喚。」

雜魚 あああ。

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック。」

雜魚 うああああああ！－！

雜魚 LPI 5250

なんだー10000行かなかつた。まあいいけど。

雑魚「チツ、いいカモだと思ったのに。ほらアンティーとパズルカードだ。」

遊佳「（え？ もしかして。）アンティーはいいです。」

雜魚「そうか。まつ、頑張れよ。」

パズルカード貰つたけど、どう考へても、バトルシティ編だよね。
どうしようか。

第2話 早速トコトコ（後書き）

はい、思いつきでフルボットになりました。

遊佳「エンシントは作者がライフ回復に使つから、入れていてるやうだよ。」

何思いつきで言つたやつなんだよ！まあ、そつなんだけど。あと、守備力が高いから、結構気に入ってるんだよね

遊佳「まあ、作者は置いといて感想などお願いします。」「お願いします。

第3話 何でひつなつたー？（前書き）

今回は原作キャラが登場します。

うつー、昨日体育祭があつてす、じい筋肉痛になつてしまひました。

第3話 何でいじつた!?

視点遊戯

「「デュエル!」」

今、城之内君と一緒に最初に行われたデュエルを見ているけど、

克也「なあ、遊戯はどうちが勝つと思う?」

遊戯「さあ、分からないよ。一体どんなデッキを使っているんだろ。

」

見ていると、先行で攻撃力2850のモンスターが場に出てきた。

克也「おいおい、あの子供負けたな。」

遊戯「まだ分からないよ。まだあの子は諦めていないみたいだしね。それどころかなんだか呆れてるみたいなんだけど。」

見ていると、天使の施しを利用してカオス・ソーサラーを特殊召喚したりとコンボがすごいや。

克也「何であんなにコンボが出来ているんだ?」

遊戯「す!」いね、あそこまでコンボを決めるとは。

遊佳「このモンスターが「フォーチュンレディ」と名の付いたモンスターによって特殊召喚されたとき相手モンスターを破壊し、その

攻撃力分のダメージを与える。

克也「なんだよあのモンスターは！－知らないし効果がどんでもね－じゃね－かよ。」

「たしかにこれはすごいね。僕もあのカードは知らないよ。」

遊佳「レベル1のレベル・ステイーラーにレベル4のクイック・シンクロンをチューニング。」

「「「チュー二ング！？」」」

克也「お、おい遊戯あれはなんなんだ。」「

遊戯 いや、僕にも分からぬ！」

一
体
なん
なん
だ

遊佳 - 金モンドスターでダイレクトアタック。

雜魚
LPI 5250

克也「さ、さすがにやりすぎじゃないか？」

遊戯 一 そうだね。でも凄いね、あの子。

大人相手に1ターンキルするなんて。

闇遊戯『相棒、あの子ヒトコエルしてみたいのか?』

遊戯「（うそ、シンクロRPG喰がどんなのか知りたいしね。）」

闇遊戯『なら、早く行ってみよ!せ。』

遊戯「（うそ、そうだね。）」

視点遊佳

今がバトルシティ編だとして、ヒュエルしてて気がつかなかつたけど、やけに背が低い気がするや。

多分、小学生かな。そして、何で禁止カードの天使の施しがデッキにあるわけ!?誰、あたしのデッキをいじったのはーーあと、これがらざつて暮らせばいいわけ!?

つて、何か手紙みたいなのが落ちてる。なにに、「これを読んだなら無事に転生出来たみたいだね。普通なら生まれる時に転生されるけど、今回は特別に小学3年生として転生させたよ。あと、家のほうは用意したけど、家族はいないからね。ちなみに、家は童実野町にあるからね。」つて、家が童実野町なのーーあと、どうして小3なの!ーもう、意味不明なんだけど。

遊戯「ねえ、ちょっとといこかな?」

遊佳「はい?」

声で何となく予想していたけど、何でAIBOに声をかけられるの!?

もう、何がどうなつているのよーー!

遊戸「どうしたの？」

遊佳「つーな、何でもありませんーーー。」

やばー、つこ顔に掛けやったよ。ビリビリよ。

遊戸「きみ、名前は？」

遊佳「あ、星井 遊佳です。」

遊戸「僕は武藤 遊戸、よろしくね。」

克也「俺様は城之内 克也だ。」

遊戸「はい、よろしくお願ひします、遊戸さん、克也さん。」

つて、何でこいつてるの！今は大変なの！」

？？？「ふうん、貴様か、シンクロ召喚といつのを使うのは。」

遊戸「え？」

遊戸「あれっ、海馬君？どうしたの？」

何故に此処にあのキャラベツが居るわけ！？

瀬人「ふうん、うちのデュエルディスクが見たことの無いカードを感知したものでな。」

やばー、そういえばデュエルディスクはあの社長が作ったんだっけ。

忘れてた。

瀬人「さて、貴様にはいろいろと聞きたい事があるな。まず、どうやってあのカードを手に入れたのだ。答えてもらおう。」

「こうなつたらとことん誤魔化してやる。

遊佳「気がついたら持つてました。」

瀬人「何つ、ならばシンクロ召喚について説明してもらおうか。」

なんだ、もっと聞いてくるのかと思つたよ。

遊佳「シンクロ召喚は、チューナーと呼ばれるモンスターと別のモンスターのレベルをあわせ、そのモンスターを墓地に送る事で召喚出来ます。モンスター」とに召喚条件が決まつてているのもいます。」

瀬人「ふうん、ならばそのシンクロ召喚、この目で確かめてやる！」

あら、やつぱりこうなつっちゃうのね。もつぞうにでもなれ。疲れちゃつた。

第3話 何でいひなつた！？（後書き）

はい、何故かこんな事になつてしまひました。

遊佳「ねえ、これからあたしどうなるの？」「

まあ、今後のお楽しみだよ。

遊佳「死ねねえええ！――」

ちょつ、キャラ崩壊してるので、ギヤアアアアア――！――！

キャラ設定（前書き）

今回は主人公についてです。

キャラ設定

名前 星井 遊佳

年齢 転生前 12歳 転生後 8歳

性別 女

性格 女だが少し男っぽい。相手が誰でもすぐにからかおうとする。気に入らない相手は、ようしゃなく1ターンキルをする。切れると誰にも手におえなくなる。

詳細 神に大量のカードを貰い、さまざまなデッキをつくる。家は童実野町にあり、家族はいなが小学3年生として普通に学校に通う。

バトルシティ編に転生し、そこから原作に介入する。仲間はあまりつくれず、一人でいる事の方が多い。恋愛事には興味が無い。

好きな事 デュエル、カード、小説を読む事

嫌いな事 カードを大切にしない人、いかさまをする人、いじめをする人、ナルシストな人

第4話 もう嫌だよ～（前書き）

今回は遊佳VS社長です。

それでは、どうぞ。

第4話 もう嫌だよ

視点遊佳

「デュエル!」「デュエル…」

はあ、何故かあの社長とデュエルすることになってしまった。する
のはいいけど、

まだ転生したばかりだからデッキが1ターンキル専用のデッキだよ
!!

もひこいや、思いつきりやってやるよ。

瀬人「俺のターン! ロードオブドラゴンードラゴンの支配者ー
を召喚! さらに ドラゴンを呼ぶ笛
を発動! 俺は効果により ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン を
2体特殊召喚する。現れよ、我最強の僕 ブルーアイズ・ホワイト・
ドラゴンーー!」

克也「出た!! 海馬のブルーアイズ・ホワイト・ドラゴンーー!」

おいおい、かなりのチートだな。これじゃあの王様やGXの髪型が
クラゲの十代と変わらないじゃない。

でも、あたしの手札を見ると、苦渋の選択、ワン・フォー・ワン、
ブラック・マジシャン・ガール、強欲な壺、賢者の宝石、って何で
魔法カードばかりなのよー!

苦渋の選択も持つていなかつたし、ワン・フォー・ワンだって持つ
てなかつたよ。

あと、しつこいけど何で禁止カードが入ってるわけー? もひく疲れた
よ。

遊佳「あたしのターン、強欲な壺を発動、カードを2枚ドロー。
苦渋の選択を発動。あたしが選ぶのはこのカード、さあ、1枚選んでください。」

ボルト・ヘッジホッグ×2 レベル・ステイラー×3

瀬人「ならば、そのネジを選択する。」

遊佳「（ネジじゃなくてボルトなんだけどな）ならば、ボルト・ヘッジホッグを手札に加え、それ以外は墓地に捨てる。ワン・フォー・ワンを発動、手札を1枚捨て、デッキからレベル1のモンスターを特殊召喚する。ボルト・ヘッジホッグを捨てデッキからサニー・ピクシーを特殊召喚する。さらに、墓地のボルト・ヘッジホッグの効果を発動する。」

瀬人「何つ、墓地からだと！」

遊佳「自分のフィールド上にチューナーがいる時守備表示で特殊召喚出来る。」

蘇れ ボルト・ヘッジホッグ そして、ホーリー・エルフを守備表示で召喚。

さらに、召喚に成功した場合 ワンショット・ブースターを特殊召喚する。

そして、一重召喚を発動。このターンあたしはもう一度通常召喚を行える。

ワンショット・ブースターを生け贋に、ブラック・マジシャン・ガールを召喚。」

「「「ブラック・マジシャン・ガールうう！……」」

みんな本当に息ピッタリだよね。それだけ仲が良いのかな。

克也「何で遊戯しか持つてないブラック・マジシャン・ガールを持つてるんだ！？」

遊佳「何で世界に一枚つて決めつけるの。他にも持っている人が居るかもしないじゃない。」

遊戯「まあ、たしかにそうかもしないね。」

遊佳「デュエル続行、あたしは 天よりの宝札 を発動、手札が6枚になるようドローする。

6枚ドロー。」

瀬人「俺は4枚ドローする。」

遊佳「 賢者の宝石 を発動、デッキから ブラック・マジシャン を特殊召喚する。

レベル2の ボルト・ヘッジホッグ とレベル4の ホーリー・エ

ルフ にレベル
1の サニー・ピクシー をチューニング。」

瀬人「くるか、シンクロ召喚。」

遊佳「世界の輝き集まる時光は新たなる力となる、シンクロ召喚現れよ エンシェント・ホーリー・ワイバーン」

克也「おい、やつとのとは違うやつだぜ。」

遊戸「うん、そうだね。でも、かつこいいや。」

遊佳「サー・ピクシーの効果発動。このモンスターが光属性のシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用された時、ライフを1000回復する。」

瀬人「何つ、1000もだと。」

遊佳 LP5000

遊佳「さらに、魔法カード バグ・ロード を発動。これは、互いの自分のフィールド上に表側表示で存在するレベル4以下のモンスターを選択し、そのモンスターのレベルと同じレベルのモンスターを1体手札から特殊召喚出来る。あたしは ボルト・ヘッジホッグ を選択し、手札から アーケイン・ファイロ を特殊召喚。」

瀬人「俺の手札に、同じレベルのモンスターはいない。よつて俺は特殊召喚はしない。」

遊佳「さらに、墓地の レベル・ステイラー の効果発動。 エンシェント・ホーリー・ワイバーン のレベルを3つ下げ、 レベル・ステイラー 3体を特殊召喚。 レベル1の レベル・ステイラー 3体とレベル2の ボルト・ヘッジホッグ にレベル2 アーケイン・ファイロ をチューニング。」

遊戸「1ターンで2体もシンクロ召喚をするの！？」

遊佳「7つの星の光集まるとき新たな希望の光となる、シンクロ召

喚輝け エンシェント・フェアリー・ドラゴン。さらに、フィールド魔法 聖域の歌声 を発動し、エンシェント・フェアリー・ドラゴン の効果で破壊し、ライフを1000回復する。」

瀬人「またか！！」

遊佳 LP60000

遊佳「エンシェント・ホーリー・ワイバーン の効果発動。このモンスターは自分のライフが相手のライフより上の場合、その数値だけ攻撃力がアップする。」

瀬人「何つ、攻撃力が4100だと！？」

遊佳「さらに、団結の力をブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールに装備。フィールド上にいるモンスターは4体、つまり3200アップする。」

克也「そんなのありかよ！？」

遊佳「ブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールでブルーアイズ・ホワイト・ドラゴンを攻撃、ダブルブラックマジック！」

瀬人「ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴンが！」

瀬人 LP1900

遊佳「残りでダイレクトアタック。」

瀬人「ぐああああ！－！」。

「

瀬人 LP-5300

もう少し行くと思ったけど、まあブルーアイズが2体も出たからしかたがないよね。

木馬「兄様が負けるなんて。」

克也「海馬が子供相手に1ターンキルされるなんて。」

何とかして帰る。もう疲れた。

遊佳「あ、あの～。」

遊戯「どうしたの？」

遊佳「もう、帰つていいですか？」

克也「えつ、もう帰んのか？」

遊佳「はい、少し用事を思い出したので。」

遊戯「そうか、じゃあ、また今度僕とデュエルしてね。」

遊佳「はい、分かりました。」

克也「あつ、遊戯するいだ。俺ともデュエルしようぜ。」

遊佳「はい、では決勝で会いましょう。」

やっと解放された。早く家を探さないと。

遊佳「ここなの？」

地図ビジュallisに来たら、普通の家がたつていた。

遊佳「とりあえず中に入ろう。」

手紙と一緒に入っていた鍵を使うと鍵が開く音がした。中に入ると意外と広かった。

机の上にまた手紙が置いてあった。

なにに、「一応小学生だから学校に通つてもらひからね、」「つて学校行かなくちゃいけないの。」「制服なども用意したよ。あと、バトルシティ編が終わるまで学校は休みだよ。」「つて休みなんかい！」

まあ、いいや。今日は疲れたからもう寝よ。これから大変だし。そのままベッドで寝てしまった。

第4話 もう嫌だよ～（後書き）

遊佳「あたしは何回テューハルすればいいのよ。」
まあ、もう少し頑張つてよ。これからバトルシティ編に入るんだから。

遊佳「もう寝る。感想などよろしくお願ひします。」
まったく、感想お願いします。

第5話 最悪な一日（前書き）

今回はいろいろと大変です。
それでは、どうぞ。

第5話 最悪な1日

視点遊佳

ううへ、眠いよ。

はつ、いかんいかんついまた寝るところだった。
つて、朝まで寝ちゃったの！？やつぱり体が子供だからかな。
まあ、今日もデュエルしないといけないから頑張りますか。まず準備をしないと。

遊佳「準備完了」と。また公園にでも行ってみようかな。」

公園に来たらもう何人かがデュエルしてる。今持っているパズルカードは2枚、たしか記憶が正しかったらパズルカードを5枚か、6枚ぐらい集めないとけなかつたはず。よし、なら6枚集めよう。

一スタスタスタ

今、確実にフラグが立つたような気がする。まあ、ただ誰かが走つていつただけだよね。そうだよね。

『あ……で……よ』

また何かフラグが立つたような気がする。今日はもつ帰らうかな？でも、早く集めないとダメだし。まあ、大丈夫だよね。

一スタスタ シュツ タツ

うん、完全なフラグでした。

？？？「フフフッ、君が星井 遊佳だな。」

どう考へてもマリクだよね。声で分かるし。それよりどうじようか。
……よし、逃げよう。全力疾走決定。

マリク「おい、待てっ！！」

うおおおおおおおー——————！
全力疾走おおおお——————！

マリク「フフッ、やつとその気になつたか。」

「もつ、こつなつたら腹をくへつてやつてやう。」

マリク「さあ、デュエルをしてもらひうよ。」

マリク「もう鬼ごつこは終わりだよ。」

「つて、追い付いてきやがつた！――やばいよ。あたしはまだ闇のゲームで死にたくないよ。」

「はあ、はあ、はあ。ここまでくれば大丈夫かな。」

もつひとつでもなれ。

「「デュエル」」

遊佳「あたしのターン、ドロー。」

フフッ、この“デッキは家を出る前に簡単に作った超ドロー エグゾディアデッキだ。さて、これに勝てるかな。楽しみだ。

遊佳「手札抹殺 を発動。互いにカードを2枚選び捨て、新たに2枚ドローする。2枚ドロー。」

手札は……うん、やっぱりチートだ。エグゾディアが今1枚、墓地に2枚あるからあと2枚だ。

遊佳「成金ゴブリン を発動、相手が1000回復する代わりにあたしはデッキからカードを1枚ドローする。」

マリク LP5000

よし、結構いいぞ。

遊佳「強欲な壺 を発動。2枚ドロー。」

あつ、勝つた。

遊佳「闇の量産工場 を発動。墓地から通常モンスターを2体手札に加える。

封印されし者の右足 と 封印されし者の右腕 を手札に加える。

「これによりあたしの勝ちは決まった！！」

マリク「なんだと！？まさかエグゾディアか！！」

遊佳「そう。今5枚のパーティが全て揃った。怒りの豪火、、エグゾートフレイム、！」

マリク「そんな、こんな事があるのか。先行1ターンキルなんて。」

いや、あるでしょう。第一今やつたでしょう。

マリク「でも、これで終わつたと思うなよ。この町にはレアハンターが多く潜んでる。決して逃れられない。」

遊佳「何であたしを狙つわけ？あたしは何もしてないよ。」

マリク「それは簡単なことだ。君は僕の知らない召喚方法をしていた。そんな君が僕の手駒になれば

ファラオを簡単に殺すことが出来るからだ。」

つておいおい、今殺すとかほざいたよね。子供に向かつてそんなことを言つうなよ。

それより、シンクロ使わなきゃ良かつたよ。まあ、今更後悔してもしかたないよね。

マリク「フフ、必ず君を僕の手駒にしてみせるよ。」

それだけ言つと突然倒れてしまった。

それより、せつかくだからパズルカードとアンティー貰おうかな。パズルカードは2枚、アンティーは、…………って、オシリスの天空

竜がいるじゃない。貰わないほうがいいよね。これは王様が手に入れるはずなんだから。ていうかあの自称神野郎がカードを全部くれたから神のカードも持ってるし。

さつさとパズルカードを集めよ。全員一ターンキルのデッキでいいよね。

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック！！」

？？？「ギャアアアアアアー！！！」

？？？ LP-7800

遊佳「パズルカードは貰うね。」

アンティーの代わりにパズルカードを2枚かけているから、これで6枚。

もういいよね。

？？？「ヒヨヒヨヒヨ、あんな所に子供がいるなんて。ついてるな。）そここの君、僕とデュエルしようよ。

パズルカード、アンティーはそれぞれ2枚ずつで。」

うわー出たよこの虫野郎。あたしの嫌いなキャラクター。どうしようかな。

まあ、パズルカードは6枚だつたと思うし。……大丈夫だよね！

遊佳「あたしはもうパズルカードを6枚集めたので失礼します。」

羽蛾「（何つ、もう全てのパズルカードを集めただと。そんな。）
なら、そのパズルカードをかけて
デュエルだ！」

えへ、しつこすぎるよ。パズルカードを全部集めたから大丈夫だと
思つたら全然ダメじやん。
人間諦めも大事なんだけどな。

遊佳「人間諦めも大切ですよ。諦めてください。」

羽蛾「そんなん、これに勝てば決勝に行けたのに。」

えつ、そんなに集めたの！？意外と強いんだね。でも無駄にデュエルをしたくないんだよね。
だつて、面倒だし。すぐに勝っちゃうし。

それより、早く此処から離れよう。さつさと決勝戦に出よう。

遊佳「此処なんだ。」

来てみると何処かのドームみたいな所だった。そういうえばこの中にバトルシップがあるんだっけ。

それより、持ち物確認。

デッキはちゃんとあるね。パズルカードも6枚全部あるし、デュエルディスクも異常なし。

そして、首にはお母さんがくれた四つ葉のクローバーのネックレス。あたしのお母さんはあたしが小さい頃に死んじやつた。でも、その時にお母さんがこのネックレスをくれたんだよね。

これはあたしの大切な宝物なんだ。いつも身に付けているからお守りみたいな物なんだ。

よし、持ち物もちゃんとあるし早く中に入ろう。

遊佳「あの～、此処が決勝のステージですよね。」

中に入るとよくいる黒いスーツを着ている人がいた。やっぱりこんな人ばかりなんだね。

黒服A「はい、そうですよ。ではパズルカードの確認を。」

遊佳「はい、これです。」

パズルカードを6枚渡すと、どうぞと言われ中に入った。

黒服A「此処があなたの部屋です。」

此処が部屋か。意外と広いな！まあ、嬉しいからいいけど。

『よ……で……ね。マ……タ。』

まだ。また変な声が聞こえた。まさか精霊かな？

そんなはずは無いよね。あの自称神野郎には精霊の事はなんにも頼
んでないし。

それより今更だけど地味に疑問がいろいろあるんだよね。
まず、バトルシティって何日もやってたつけ？

それにグールズとも全然会つてないし。

まあ、いいや。考えるのも面倒だし、今日はもう寝よ。
明日は決勝戦があるかな。

第5話 最悪な1日（後書き）

次回から決勝戦に入ります。

遊佳「大丈夫かな、あたし。」

まあ、闇のゲームをすることだけ言つておくよ。

遊佳「あたしはまだ死にたくないよ。」

大丈夫だから。それより、感想やアドバイス等よろしくお願いします。

遊佳「お願いします。」

第6話 決勝戦開始！（前書き）

やつとテストから解放されました。
これでやつと進めることができます。

遊佳「テストの点数は？」

「言つわけないでしようがーー！」

それでは第6話、スタート！

第6話 決勝戦開始！

視点遊佳

アナウンス「これより、トーナメント1回戦を始めます。参加されるデュエリストの皆様はホールへお集まりください。」

良く寝たな。転生前はまだ中学生のくせに睡眠時間は平均6時間だつたんだよね。

いつも夜は11時に寝て、朝の5時に起きてた。
あたしの家族は、お父さんとお兄ちゃんが2人もいるから
あたしが早く起きていろいろとしたつけ。

みんな、大丈夫かな。

大丈夫だよね。よし、決勝も頑張りますか。

『が……ば……て……だ……ね。』

またかよ。でも、前よりはだいぶ聞こえるよくなつたな。
まあ、あまり気にせずに決勝行こう。

おお～、いろんな食べ物があるや。それより、決勝戦は誰が出るんだろう。

あたしが居るから誰か一人抜けるはずだし。

でも此処には、貌良に遊戯さんに舞さんに克也さんと瀬人さんでマリクにリシドがいる。

もしかして、イシズさんが抜けたのかな。でも、それはないよね。だとすると誰かは応援として来てるのかな。

まあ、1回戦は王様VS盗賊だったはず。

興味ないから、飯を食べたら部屋に戻ろ。

遊戯「あつ、遊佳ちゃん。」

あつ、見つかった。

遊佳「またお会いしましたね。」

克也「おー、お前も決勝戦に出られたみたいですね。」

遊佳「はー、でも出られたみたいですね。」

うわー、どうしよう。あんまり関わりたくないんだけどな。

杏子「ねえ、遊戯の子は?」

そりこえ、まだ会つてなかつたな。

遊戯「この子は星井 遊佳ちゃん。前に話したシンクロ召喚を使つ女の子だよ。」

ちゅつと、シンクロ召喚を広めなごでよーー。

舞「くーーの子がね。あたしは孔雀 舞よろしく。」

遊佳「改めて、星井 遊佳です。よろしくお願ひします。」

何かとんでもない事になつちやつたよ。まあ、いいかな。

杏子「あたしは真崎 杏子よろしく。」

克也「あと、俺の妹の静香だ。」

静香「よろしくね。」

遊佳「あとしあくびお願いします。」

遊戯「あと、本田君に御伽君に摸良君だよ。」

杏子「あと、ナム君だよ。」

出たな、マリク。ここの人がマリクだと明かすか、明かさないか。
どうじよつか。……まあ、下手に言つてから流れがおかしくなつちや嫌だしね。
言わないでおこう。

杏子「でも、こんなに一氣に覚えられないよね。」

遊佳「大丈夫です。杏子さんに舞さんに静香さんに本田さんに御伽さんに摸良さん、ま、ナムさんですよね。」

克也「すげー、みんな覚えてるじやんか。」

マリク「こいつ、まさか僕の正体に気がついたのか？何故だ。」

危ない危ない。うつかりマリクって言つてござったよ。

磯野「これより、トーナメント一回戦の組み合わせを発表いたします。」

克也「おつ、いよいよか。」

あたしは何番目だろ。

最初は分かるけどもしかしたら変わるかも知れない。

磯野「アルティメットビンゴスターーー！」

最初の対戦者は……デュエリストナンバー6、猿良了！

二人目の対戦者は……デュエリストナンバー3武藤遊戯！

あつ、やつぱりそのままなのね。まあ、あたしは部屋に戻つて休んでおこう。

結果は分かっているんだしね。暇が一番嫌いだし。

マリク「ねえ、遊佳ちゃん、君も観戦するの？」

遊佳「いえ、あたしは部屋で休んでいます。」

克也「えつ、お前見ないのかよ。なんでだ？」

遊佳「わざわざ他人のデュエルを見る位なら自分のデッキを調整したほうがいいですし。」

マリク「凄い自信だね。」

遊佳「はい。それに、神に対抗する『テッキ』を作りたいのであたしは失礼します。」

あたしはそのままその場を後にしたけど、何かどんな『テッキ』になるんだろううねとか

そんな『テッキ』があるのかよとか聞こえた。

それより、やっぱ神に対抗するなら邪神でしょ。

邪神は神のカードに対抗して作られたしね。

遊佳「それより、本当にカードが実体化するのかな？」

あの自称神野郎、もう面倒や。馬鹿でいいよね。あの馬鹿に一応頼んでおいたけど

本当に実体化するのか。試してみよ。

遊佳「ブラック・マジシャン と ブラック・マジシャン・ガール を召喚。」

ガール『やつと、出られましたー!』

遊佳「煩い、黙つて、喋らないで、消えて、カードに戻つて、そして消えて。」

ガール『ひどいですー。』

何か涙目になつたけど、これって精霊パターンだよね。

マジシャン『やつとお会いすることができました。主。』

何でこうなったんだ？まあいいや。早くデッキを作ろ。

ガール『マスター、どんなデッキを作るんですか？』

遊佳「神に対抗するカード、邪神を使う。」

ガール『へ～、そんなカードがあるんですね。』

遊佳「まあ、少し待つて。すぐに作るから」

…… 30分後

遊佳「出来た。それよりまだデュエルしてるのかな？少し見に行つてみよ。」

遊戯「オシリスの天空竜 で攻撃！、サンダーフォース！」

おお、ちょうど終わったみたいだな。それより、30分もデュエルすんなよ。

長すぎだろ。まあ、いいや。

克也「あれっ、遊佳じゃないか。ビリしたんだ？」

遊佳「はい、デッキが出来たので少し様子を見にきました。」

御伽「もう出来たのかい、す」」こね。」

デッキ1つ作るのにそんなに時間は掛からないと思ひがど。
でも今回は少し大変だつたけど。

アナウンス「これより、20分の休憩とします。
20分後、再びホールにお集まりください。」

よし、それまで寝よう。

ガール『寝るんですか！？』

遊佳「（まあ、そんなに突つ込まないでよ、あかり。）」

ガール『なんですか！？そのあかりつて。』

遊佳「（今あたしが決めた名前。ガールはあかりでマジシャンは…
：ナイト。）」

ガール『何でお師匠様はナイトなんですか？』

遊佳「（ナイトは騎士つていう意味でしょ、喋り方が騎士っぽいか
ら。）」

マジシャン『（私は騎士ではなく魔術師なんだが。）』

遊佳「（ナイト、自分は魔術師だ。とか思つてゐるでしょ？。）」

マジシャン『つ！？は、はい。』

遊佳「（喋り方がそれっぽいだけ。いいのが思ついたら変えるよ。）」

マジシャン『は、はい。分かりました。ならばこれからはナイトと名乗ります。』

ガール『あたしも』これからはあかりって名乗ります。』

遊佳『（それじゃ、時間になつたら起してね。）』

第6話 決勝戦開始！（後書き）

はい、やっと精靈を出せました。

遊佳「何で精靈を出したの？」
「いらないのに。」

まあ、せっかくなんだから出したくなるじゃんか。
ところ訳で次からはあかり、ナイトとして出してこれます。
お楽しみに。

第7話 いきなり（前書き）

今日は凄いグダグダです。

遊佳「作者の勝手な妄想があるから注意してください。」

それでは、第7話スタート！！

第7話 いきなり

視点遊佳

あかり『マスター、もうすぐ2回戦の抽選が始まりますよ。』

遊佳『ふあ～、もうそんな時間か。さて、行きますか。』

さて、2回戦はどうなるかな。早くあたしの番が来ないかな。

木馬「これより、2回戦の抽選を行います。

アルティメットビンゴ、スタート！」

何で木馬がやつてんだ？それより、次は誰がやるんだろうな。

木馬「2回戦の対戦者は、デュエリストナンバー2、城之内 克也！2人目は、デュエリストナンバー7、マリク・イシュタール！」

次は凡骨VSリシドか。アニメどうりだな。

もしかして、多分だけどあたし、孔雀 舞の代わりかな？

そんなはず無いよね。……無いよね。

あかり『マスター何か大丈夫ですか？』

遊佳「（まあ、大丈夫だよね。暇だし、デッキでも作るか。）

あかり『そうですね。』

さて、それじゃ あ部屋に戻るかな。

遊戯「この『テュエルも観ないの?』

遊戸「はい、部屋に戻つて休んでます。』

遊佳「さて、どんな『デッキを作ろつかな。』

あかり『マスターが前から作りたいって言つてた
シンクロ主体『デッキはどりですか?』

遊佳「あ~、あの蟹の『ペー』『デッキか。』

よし、それじゃシンクロ主体『デッキとエクシーズ』『デッキを作るか。』

シンクロなら作れるけど、エクシーズは難しそうだな。

あかり『そういえばマスターはエクシーズ使ってませんね。』

遊佳「まあ、あれは面倒だからね。』

それよりあかり、1つ聞いていい?』

あかり『なんですか?』

遊佳「何であたしが転生前に思つてた事を知つてゐるの？」

あかり『だつて、あたし達もマスターと同じで向こうの世界から来たんですから。』

そななんだ。変なの。

遊佳「つまり、転生前もずっと一緒にいたという事？」

あかり『はい、そうですよ。

マスターは転生前もあたし達を大切に使ってくれましたよね。』

遊佳「それはそれ、これはこれ。まさかあたしと一緒にだとは思わなかつたよ。なら、リアルに元の世界で精靈が居ると言つこと？」

あかり『そういう事です。マスターが捨てられていたカードを拾つたから、カード達が喜んでくれてます。きっと、いつでも助けてくれますよ。』

遊佳「それは、ずいぶん前の話でしょ。」

あかり『でも、凄く喜んでいましたよ。』

遊佳「まあ、それなら良かつたよ。さて、デッキを作つ。まず、あの蟹が使つてたカードを集めて、使いやすく変えよ。」

…… 10分後

遊佳「よし、後は何を入れようか。」

あかり『これを入れて、これを抜いたらどうですか?』

遊佳『ううん。でも、これを入れたらこれがいらぬいし。こっちを入れたらどう?』

あかり『なら、こっちも入れたらどうですか?』

……せりに10分後

あかり『やっとできましたね~。』

遊佳『ああ、意外と時間がかかったね。そして、まだやつてるのか?』

ナイト『主、もうまもなく終わるようですね。』

遊佳『そ、ありがとうございます。』

さて、また20分の暇が出来てしまう。

ライティー『なら遊ぼう、マスター。』

ダルク『煩いな。』

ライナ『まあ、そう言わないの。ダルク。』

ファイリー『あたいも仲間に入れてよ。』

アーシー『僕も仲間に入れてよ。』

アウス『僕も仲間に入れてよ。』

ワイン『あたしも入ります！』

ヒータ『オレはバス。』

エリア『えへ。やううよ、ヒータ。』

なにこれえ。

遊佳『あかり、状況説明を。』

あかり『はい、マスターが持っているカードの精霊です。』

遊佳『あたしつて何体精霊を持っているんだろ。』

あかり『分かりませんが、沢山いることは確かです。』

ライティー『マスター、遊びまよ。』

まあ、こっちに来てからは子供っぽい遊びはしないからたまにはいいかな。

気分転換に思いつきり遊びうかな。

遊佳『いいよ。何して遊ぶ？』

ライナ『あたし、かくれんぼしたい！』

ダルク『子供だな。』

ライナ『ほつといてよーお兄ちゃん。』

遊佳『お、お兄ちゃん！？』

アウス『そう、僕が長女で弟のダルク、次女のウインに3女のヒータそして4女のエリアで5女のライナです。』

アーシー『私達も。私が長女で次女のダルキー、3女のウォーテリーに4女のウインディー5女のファイリーで6女のライティーです。』

遊佳『姉妹だつたんだ。そしてやつぱりダルクは男の子だつたんだ。』

』

ダルク『そこは言わないでくれ。主人。』

ライナ『それより早く遊ぼうよ。』

遊佳『分かつたよ。鬼は誰がする？』

ファイリー『あたいがするよ。』

遊佳『それじゃ、みんな参加してね。』

ヒータ『オレも参加するのか！？』

遊佳『勿論。みんな他の人に見つからないように気を付けて。隠れる場所はこのバトルシップの中全て。1分したら探して。20分以

内で全員見つけたらファイリーの勝ち。いい?』

ファイリー『いいよ。絶対に見つけてやる。』

アウス『でも、こんなにいるのに20分で見つけられるかな?』

何か挑発してるけど。

遊佳「それじゃ、スタート!..!..』

さて、何処に隠れよ!。

……おつ、いい場所見つけ。此処にしきよ!。

……15分後

ファイリー『よし、後は主人だけだ。』

ライティー『お姉ちゃん凄いね。』

近くに居るけど意外に見つかっていない。
でも、意外と怖いんだよね。こういうの。

アナウンス『これより、バトルシティ3回戦を行います。』

ファイリー『あ~あ、負けちゃった。』

遊佳「あたしの勝ちだね。」

ファイリー「そうだね。それより主人、早く行かないと。』

遊佳「そうだね。行こう。」

磯野「これより、3回戦の抽選を行います。

アルティメットビンゴ、スタート！！

最初の対戦者は、デュエリストナンバー4、星井 遊佳！！

遊佳「え？」

克也「おっ、今度は遊佳の番か。」

磯野「続いての対戦者は、デュエリストナンバー5、マリク・イシユタール！！」

「ええええ――――――！」

煩い&はもるな。

克也「大丈夫なのかよ。」

御伽「確かに。この子はまだ子供だよ。なのに、闇のゲームをするなんて。」

遊佳「あたしなら大丈夫です。」

遊戸「だが、闇のゲームは君が思つていいほど甘くない。ここは諦めたほうがいいぞ。」

何か、似たセリフを言つたような。

遊戸「大丈夫です。デュエリストなら、対戦者に背を向けられません。」

遊戸「だが、危険なんだ。デュエルより、命のほうが大切なんだ。」

遊戸「大丈夫です。あたしは勝つので。勝てば問題はありませんよね。」

遊戸「つ！？分かった。だが、危険を感じたらすぐにデュエルをやめるんだ。」

何かアテム凄い親みみたいな事言つてるし。

あかり『マスター、頑張つてください。』

遊戸「（ああ、任せて。絶対に勝つ！…）」

第7話 いきなり（後書き）

遊佳「なにこれえ。」

最初に言つことがそれかい！！

遊佳「だつて、精霊が何か沢山出てきたし。」

まあまあ。

さて、ここで今回登場した精霊を簡単に説明します。

靈使いのアウス、ダルク、ウイン、ヒータ、エリア、ライナ。
フォーチュンレディのアーシー、ダルキー、ウォーテリー、ウイン
ディー、ファイリー、ライディー。

遊佳「勝手に作者が妄想で姉妹、姉弟にしたから
実際は違います。注意してください。」

もう一度言います。違うので注意してください。」

それでは、感想等お願いします。

第8話 最悪な相手（前書き）

今回はとりあえず短いです。
すみません。

遊佳「そんなダメ作者はほつとして第8話スタートー。」

第8話 最悪な相手

視点遊佳

さて、大変な事になつたぞ。相手があのマリクだとは。
ま、頑張つて勝つか。

磯野「これより、決勝戦第3回戦を開始致します。

対戦者は互いのデッキをカット＆シャッフル！」

デッキを渡すなんて嫌だな。キモイし、キモイし、キモイし。

あかり『マスター、凄い嫌つているんですね。

あかりが突っ込んで来たけどスルー。我慢してデッキを渡したらキモイ顔で、

マリク「ははは、ラーがデッキの下に行くべくシャッフルするんだな。』

とか言つてた。とりあえず、キモイ……誰か何とかして……

磯野「それでは、デュエル開始いい……！」

やつた、生での「デュエル開始いい……！」が聞けた。

マリク「はは、俺のターン、ドロー！」

あつ、あいつ先行取りやがつた。やばい、あいつに先行を取られた

5'

マリク「速攻の吸血蛆を召喚、プレイヤーへダイレクトアタック！」

ほら見りー！やつぱりー！つたー！
やつぱりダメージを体感するのか？

遊佳 くつ！！

遊佳 LP3500

ダメージの痛みを受けるかと思ったら、痛みはなかつた。
なんでだ?

なら、転生前の友達とか忘れるの!? どうしよう。

マリク「さうに俺は手札を一枚捨て、速攻の吸血蛆を守備表示にするぜえ。」

克也「なんだよ、そのチートカードは！？」

出たよ。ラーを墓地に送るコンボ。何で手札がそんなに揃うの？

マリク「さらにカードを2枚伏せ、ターン終了だ。」

遊佳「あたしのターン、ドロー。フィールド魔法 カイザー口ロシアム を発動。これにより、相手はあたしの場に出ているモンスターの数だけしかモンスターを出すことができない。

そりでモンスターをセット、カードを3枚伏せターンエンド。」「

遊戯「よし、うまいぞ。これでやつはこれ以上モンスターを出せない。」

克也「すげー。これなら勝てるかもしねえ。」「

何とかこれでうまくいけるかな。

マリク「くつ、鬱陶しいカードだ。俺のターン、ドロー。魔法カード サイクロン 発動！その邪魔な魔法カードを破壊！」

えええー、そんなカード入れてたのかよ。なら、

遊戸「リバースカードオープン罠カード マジック・ドレイン これにより

相手は魔法カードを1枚捨てなければ魔法カードの発動を無効にし、破壊する。

さあ、どうしますか。破壊か、捨てるか。選んでください。」「

マリク「くつ、なら魔法カードを一枚捨てるぜ。」「

手札を全部使ってまで破壊したか。

マリク「リバイバルスライム を守備表示で召喚しターンエンドだ。」「

遊戸「あればつ！気をつける、あのモンスターは「あの、それって手助けになるのでは？」つぐ、だが。「リバイバルスライム は再生能力を持つていて、ですよね。」「つーああ。」「

マリク「ちつ、知つていやがつたか。」

遊佳「知識ならそれなりに自信はあります。あたしのターン、ドロード！」。

カードを1枚伏せ 天よりの宝札 を発動。あたしは6枚ドロー。」

マリク「俺も6枚ドロー。」

遊佳「カードを1枚伏せターンエンド。」

マリク「俺のターン、ドロー。チツ、ターンエンドだ。」

どうやら手札が事故ったようだね。
助かったよ。

遊佳「あたしのターン、ドロー。伏せていたリバースカードオープ
ン、極限への衝動 を発動！」

これは手札2枚を墓地に送る事で ソウルトークン を2体特殊召
喚する。

手札を2枚捨て、ソウルトークン を2体特殊召喚。
さらに、魂を削る死靈 を反転召喚し、魂を削る死靈 と ソ
ウルトークン 2体を生け贋に捧げる！」

マリク「3体の生け贋だと！？」

遊戯「3体の生け贋、神のカードか。それとも別のモンスターか。」

神のカードなわけ無いでしょ！

遊佳「いでよ 邪神アバター……！」

みんな驚いてる。どういう意味で驚いてるんだろう。
あまりにも黒過ぎるとか？

それとも3体分の生け贋なのにこんなモンスターだったから？

マリク「はっ！こんなモンスターで生け贋が3体だと。舐めるのも
いい加減にしろよ。」

遊佳「別に舐めてませんよ。アバターの効果発動。このモンスター
が召喚に成功した時
相手ターンで数えて2ターンの間相手は魔法・罠カードを発動でき
ない。」

マリク「何っ！？」

この2ターンの間で決めるしかないな。

遊佳「さらに、フィールド上にいる最も攻撃力の高いモンスターの
攻撃力+100の攻撃力になる。」

邪神アバターで攻撃。さらにカードを2枚伏せてターンエンド。

「

マリク「クッ、俺のターン、ドロー。（このままじゃ何も出来ない
ぜ。）カードを伏せターンエンド。」

そうきたか。

さて、どうやつてあのスライム野郎を破壊するか。

遊佳「あたしのターンドロー。さて、どうしようかな。」

「「「考へていなかつたのか！！」」

何か突つ込まれちゃつた。
でも、本当にどうしよう。モンスターカードが無い。
まあ、覚えているのが確かならあのデッキにはせいぜい罷外し位しか破壊するカードが
なかつたと思うし、今はまだ魔法・罷カードが使えないから意味がない。

でも、その間に死者蘇生が引かれたらやばいな。
多分速攻の吸血蛆の時に墓地に送られたと思つし。

遊佳「カードを伏せて、ターンエンド。」

これで大丈夫かな。

マリク「俺のターン！」

— 続く —

第8話 最悪な相手（後書き）

短くてきりが悪くてすみません

デュエルシーン、難しいですね。

遊佳一 それでは感想等お聞かせ下さい。

お願いします。

第9話　「れいがチート！！（前書き）

はい、今回は題名を見ても大抵の人は予想が出来る展開です。

遊佳「作者はデュエルシーンを書くのが超が付くほど下手くそです。なので今回は読まなくとも話の流れは簡単に分かりますのでこれを読まずに

次を読んで構いません。」

それでも読んでくださる心が広い人はどうぞよろしくお願いします。

よろしいですね。それでは第9話スタート！

第9話　「れこそがチート！」

視点あかり

はーい、あたしマスターである星井 遊佳の精霊のブラック・マジシャン・ガールことあかりです。

現在マスターと顔芸さんことマリクさんのデュエルをみんなで見ているんだけど。

ウイン『ねえ、みんなどっちが勝つと思つ?』

アウス『そりゃマスターでしょう。今でもマスターが押しているんだから。』

ダルク『だけどあの顔芸の事だ、逆転のカードを引くかもしない。』

あかり『どうだろうね。どう転ぶか分からいのがデュエルだからね。』

今の状況を簡単に説明すると、手札はマスターが3枚で顔芸さんが8枚。

伏せカードはマスターが5枚で顔芸さんが3枚。

モンスターはマスターが邪神アバター1体で顔芸さんがリバイバルスライム1体。

これからどうなるか。

場にいるモンスターはマスターのほうが多いし、手札は顔芸さん

マリク「俺のターン、ドロー。」(リバイバルスライムが居るから1ターンは持つだろう。) 俺はこのままターンエンドだ。」

遊佳「あたしのターン、ドロー。（このターンで決めたいけど）（やつてあのスライム野郎を破壊するか。何か破壊できなくてウザイ&顔芸の顔がむかつくんだよね。切れないようにならないとな。）魔法カード 強欲な壺 を発動。2枚ドロー。（あつ、いけるかもしない。でも、どうしようかな。まあ、やつてみますか。今は魔法、罠カードも使えないし。行けるかな。）

杏子「このモンスター見たこと無いや。どんな効果なんだろ?」

出たつ！マスターお得意のコンボ！！転生前は超が付くほど運が悪くてできなかつたけど…。やつと出来たんだとしてもスターダストの効果で破壊されちやうし…。でも、転生してからはチートになつたから良くなこのコンボが決まるんだよね。

遊佳「そりに ワンダー・ワンド を装備し、効果で破壊する…！
そして2枚ドロー出来る。
さらに、ライティーの効果で『テッキから フォーチュンレティ・フ
アイリー』を特殊召喚出来る。
さらに『ファイリー』の効果発動…！」

マリク「何回効果を使つて いるんだ！！」

遊佳「そんな事言われても、魔法使い族はコンボが基本なんで。」

遊戯「確かに、コンボは魔法使い族の基本だが、これほどコンボが決まるのは珍しいぞ。」

そんなに珍しいのかな？マスターならもつとコンボ決めそうなんだけどな。

遊佳「（そんなに珍しいのかな？頑張ればもつとコンボを決められそうなんだけだな。）

デュエル続行。ファイリーはフォーチュンレディと名の付いたカードの効果によつて特殊召喚に成功した時、相手フィールド上の表側表示モンスターを1体破壊する。スライム野郎を破壊する。」

ま、マスター、スライム野郎ってひどいですよ。

それより、ほとんど元のデッキと変わつてないけど……。

遊佳「さらば、スライム野郎の攻撃力分のダメージを相手に与える。」

マリク「ちつ！」

マリク LP2500

遊佳「まだです。魔法カード 一重召喚 を発動。効果によりあたしはもう一度通常召喚が行える。

ファイリーを生け贋に捧げて ブラック・マジシャン・ガール を召喚。

さらに、リバースカードオープン魔法カード 賢者の宝石 を発動。あたしはデッキから ブラック・マジシャン を特殊召喚する。そして 邪神アバター は効果により攻撃力が2600となる。」

やつた！マスターがあたしを使つてくれました。
それより、マスター手加減無しだね。

今のフィールドは、

ブラック・マジシャン ATK2500

ブラック・マジシャン・ガール ATK2000

邪神アバター ATK2600

でも、マスターのことだからまだ何か有る気が……。

遊佳「さらば、伏せていた 団結の力 を ブラック・マジシャン
に装備。

当然、アバターの攻撃力もアップします。」

えへと、計算すると、

$$4100 + 4200 + 2000 = 10300$$

$$2500 - 10300 = -7800$$

ま、マスター容赦無しです。なんだかかわいそうです。

遊佳「全モンスターでダイレクトアタック！！」

マリク「くそつ！－－こんなガキにやられるなんて！－－！」

そう言つと顔芸さんは倒れてしまいました。

このバトルシップって本当に大変な大会ですね。見ていて分かります。

磯野「トーナメント第3戦勝者星井 遊佳……」

克也「スゲー、あのマリクに勝つたぜ……！」

杏子「確かに、子供なのに凄いわね。」

遊佳「ありがとうございます。それではあたしは部屋でデッキ調子待て。なんですか？」

瀬人「アンティールールによりラーのカードを受け取れ。」

遊佳「（あつ、忘れてた。どうしよう。あたしが受け取つたらアテムの記憶が戻らないかも。）

でも、普通に渡せば……いや、アテムの事だからもしあたしが勝つたら逆に神のカードを渡すかもしれない。どうしよう。……こうなつたらわざと負けて渡すしかないか。）分かりました。それではあたしは部屋に戻つています。」

マスターはそう言つと降りて行つちやつた。

視点遊佳

は〜、疲れた。顔芸相手だと精神的に疲れるよ。神のカードの事もすっかり忘れていたからね。

あかり「マスター、お疲れ様です。」

遊佳「ああ、あかりか。何かもの凄く疲れたのは気のせいだろ？か。

「

あかり『はは、多分気のせいじゃ無いと思こますよ。

遊佳「あつ、やつぱり。顔芸相手だと疲れちゃうよ。」

あかり『はは。でもマスター余裕でしたよね。』

遊佳「そうでもないよ。初手を引いたとき事故りかけてたもん。天よりの宝札で何とかなったんだけどね。」

あかり『へ～。後マスター、デッキがいつものデッキとあまり変わつてないんですけど。何ですか？』

遊佳「だつていきなり作れと言われても作れないでしょ。それに、まだ1回も試していないので慣れない戦い方でやるのは完全にこちらが不利になるだけでしょ。だったら、いつものデッキを少し変えるほうがましだし。」

それに、邪神は作るのが難しいからこつするしかなかつたんだけどね。

あかり『確かにそうですね。』

遊佳「確かに今夜のデュエルは後キャベツとイシズさんだけだったよね。」

あかり『はい、それよりマスター。キャベツはかわいそなうなでせ

めて社長にしてあげたりどうですか?』

遊佳「まあ、それもそうだね。社長でいいか。さて、あたしは寝るか。』

あかり『何でそいつ事になるんですか!?』

遊佳『暇だから。』

あかり『マスターは本当に暇が嫌いですね。』

明日つて何かあつた氣がするけど、なんだっけ?
まあ、いいや。早く寝よ。

あかり『(マスター寝ちゃつた。絶対に明日乃亜編があること跡れ
てる。)』

第9話 じれ「そがチート!!」(後書き)

す。』
あかり『はーい、今マスターが寝ているので、あたしが担当しまー

何故にあかり！！まず担当とかあるのかよ！－

あかり『まあ、そう言わない。

さて、次回はいよいよ乃亜編！凄く楽しみです！』

次までに新しいデッキを考えて置かないと。

あかり『念のため誰ひとりお見附す

ます

それでは
感想やアドバイス等お嬉しいします

お願いします。

第10話 乃亞編突入！！（前書き）

どうも、久しぶりの投稿です。

遊佳「何でこんなに遅いんだよ……。」「

フフッ、だがもうすぐ休み！！
これでどんどん投稿が出来る！！！

遊佳「何か作者が壊れたので第10話、スタート！」

第10話 乃亜編突入！！

視点遊佳

あ～、もう朝か。眠い。

ナイト『おはようございます、主。』

遊佳「ナイト、おはよう。他のみんなは？」

ナイト『尚未だ寝ています。起こしますか？』

遊佳「いや、いいよ。まだ朝早いし寝かしておいてあげて。」

ナイト『分かりました。』

さて、今日は何があつたつけ？何か。何かあつた気がするんだよね。
なんだつけ？
もう、ほとんど覚えてないや。特にバトルシティ編はまず見ていいし。

一グラグラグラッ！！

遊佳「じ、地震！？」

ナイト『いえ、ここは飛行船の中です。地震が起きるはずありません。』

遊佳「た、確かに。じゃあ一体何が起きたんだ？」

あかり『あわあわあわ。ま、マスター。ゆ、揺れていますーー。』

遊佳『そのへりこ分かるよ。とつあえず落ち着いて。』

アウス『マスター、大変だよー。』

もうひ、今度は何が起きたの。

アウス『どうやらこのバトルシップが乗つ取られたようだーー。』

ええーーーーーー！そんな場面あつたっけ？

あつ、一つだけあつた。

確か乃亜編だつたっけ？

その時、バトルシップのコントロールが奪われて、

つて、だつたらみんな集まつていたはず。あたしも行こひつ。

遊佳「やつと着いた。迷路みたいで道に迷いかけた。」

遊戯「あつ、遊佳ちゃん、大丈夫？」

遊佳「はい。それよりどうなつてているんですか？」

克也「おいつ、あれを見ろ！」

凡骨が大声を出しながら指を指した方向を見ると船からしき物が
つた。
大きいね～。つて、のんきに言つてている場合じやないよ。どうしよ
う。

乃亜「やあ、瀬人。」

瀬人「貴様、なにものだ！…氣安く呼ぶな！…」

乃亜「僕は海馬 乃亜。全知全能の神…とでも言つておくれ。」

確かにこいつが海馬のお父さんの子供。
つてことは一応兄弟なんだよね。相性悪いけど。

つて、のんきな事を考へてゐる内にその船からしき物の中に入つち
やつた。
どんだけでかいんだよ……。

みんな降りて行くみたいだからあたしも逝くか。

あかり『マスター、字が違いますよ。』

おつと、間違えた。行くかだった。

あかり『マスター……。』

少し進むと

乃亜「みんな来たようだね。」

大きなモニターに乃亜が映った。

瀬人「貴様、姿を現せ！！」

乃亜「ならば、君達が来るといいよ。」

ーシュイイイイイ

克也「うわあああ！……！」

遊戯「城之内君！……！」

あつ、凡骨が落ちたwww

木馬「兄様！……！」

一シユイイイイイ

木馬・瀬人「うわああ！……！」

遊戯「海馬君、木馬君！……！」

○り抜○○一ブ

一シユイイイイイ

杏子「キャアアアアア！……！」

遊戯「杏子！……！」

やばいって。

一シユイイイイイ

静香「キャアアアア！……！」

御伽・本田「静香ちゃんつ……つうわああ……！」

今度は空氣く、本田と御伽が落ちた。残っているのはあたしとハイBOUだけ。

嫌な予感しかしないんだけどなー。

あかり『マスターどう考へても…。』

ー シュイイイイイ

遊佳『キヤアアアアアア！…！』

遊戯『遊佳ちゃん！…！みんなをビリする氣だ！…！』

ー シュイイイイ

遊戯『うわああああああ！…！』

あたしは高所恐怖症なんだよ！…！

もう嫌D A！…！

アウス『マスター！…！』

ワイン『待つてーーー。』

エリア『お、落ちるー！…』

ダルク・ヒータ・ダルキー・ワイン『ティー』『みんな煩い！…！』

もうっ、なんだこのカオスな状態は！！
マジで誰か助けて～！

遊佳「こ、ここは？
ナイト『主、大丈夫ですか？』
遊佳「あたしは平氣。他のみんなは？」
アーシー『私達は皆無事です。』
アウス『こっちもだよ。でも遊戯さん達とははぐれたみたいだよ。』

うわ～。これからどうしよう。面倒なことになつたな。

遊佳「ひ～。」
「わあ～……。崖ちゃん、此処……！」

どれだけあたしをいじめれば気が済むのよ……。
んつ、あれは……？

遊佳「つて杏子さん！？大丈夫ですか？」

杏子「あつ、遊佳ちゃん。無事だつたんだ。」

遊佳「いやいや、杏子さんは無事じや無いですよね……。」

何で切れている吊り橋にぶら下がつているわけ？
とつあえず引き上げないと……。

遊佳「大丈夫ですか？」

杏子「あたしは大丈夫。みんな無事かな……。」

遊佳「あたし達が無事なら皆さん無事だと思いますよ。それより、

「…」

「…」

遊佳「…なにこれ。ペンギン?」

杏子「あっ、あなたあの時の」

「…」

何か鳴いたら歩きだした。そしてまた「…」を回ぐ。

杏子「何つ?付いてこいつで言つていいの?」

遊佳「みたいですね。とりあえず行ってみましょう。」

ペンギン「クエックH」

なにこれ。丸太で作ったボート?
実際に見てみると良く出来たね。

さうにそのボートに乗つて進んでいく。

なんだか寒いな。

つ！――ひつて南極！？

そつか。あの変態ペンギンオヤジか。嫌だな。

杏子「ペンギンの国?」

遊佳「ペンギンの国。面白そうですね。」

杏子「面白そう……。」

お城の中に入つたら沢山のペンギンがいた。

何かキモツ――

大瀧「フフフツ、良く来ましたね。真崎 杏子16歳、星井 遊佳
8歳。」

遊佳「つ――女の子の年齢を知つてゐるなんて、この変態――
そもそもこれはプライバシーの侵害よ――この変態ペンギン――」

あかり『マスター、だから突っ込むところが違います！！』

まあ、あかりの言つ通り突っ込むところが違つけど。

それより、何故あたしの事を？まだこっちに来てまもないはず。

大瀧「さて、これよりオーディションの面接を始めます。」

遊佳「何が面接よ。早く此処から出しなさいーー！」

大瀧「星井 遊佳8歳、あなたのようなガキには用はありません。」

いちいち何で年齢を言つかな。つざい。

遊佳「ならデュエルしなさいよ。」

大瀧「ウハハハツ、あなたのよつなガキがこの私に勝てると思つて
いるんですか！」

「
一ブチツ！

あかり『あつ、マスターがキレた。まあなんどもガキつて言われた
ら切れるよね。』

遊佳「おいつ、デュエルしろよ。」

第10話 乃亜編突入！！（後書き）

アウス『今日は僕が担当だよ。』

だから何で……。

アウス『マスター、最後が蟹みたいになつていたよ。』

まあまあ。

さて、次回は遊佳VS変態ペンギンです。

アウス『変態ペンギン大丈夫かな？』

ここは主人公を心配しそうね。

それでは、

アウス・作者『『次回もお楽しみに！』』

番外編クリスマススペシャル（前書き）

今回はクリスマススペシャル！！

遊佳「あたしの転生前のお話です。」

では

遊佳・作者「「どうぞーー！」」

番外編クリスマススペシャル

—冬のある日—

遊佳「あ～、寒い。学校つて面倒だな。いつそのことなくなればいいのに。」

火蓮「たしかにね～。そしたらズット『テュエルが出来るのにね～。』

遊佳「この『テュエル馬鹿。あんた弱いくせに。』」

相変わらずの毎日。

いつも学校の登校中は必ずこの話題が出てくる。

遊佳「どうせだから学校に放火しようか。」

火蓮「つ！…いやいや、それはさすがにダメだろ…！」

遊佳「やるわけないだろ。この馬～鹿。」

何で本気にするかな。

本当に馬鹿だな。

遊佳「はあ、学校がつまらなさすぎる。」

火蓮「たしかにね。アニメみたいに学校でも『テュエルがOKだったらしいのにね。』」

遊佳「爆弾で学校を吹き飛ばしたいな～。

爆弾を時限爆弾にして授業中に爆発させて自分達も巻き込まれました つてすれば。」

火蓮「それなら、ばれないかもね。」

遊佳「そんな事出来るか。この馬鹿、この馬鹿男（〇徳 〇子）め。」

火蓮「ビニの聖〇 太〇だよ！ あたしは女だ！ ！」

そんな話をしながら学校に到着。

火蓮とは別のクラスだから部活で会う約束をしている。
でも今日は成績が渡されるためお昼で授業は終わり。その後に部活だ。

同じクラスじゃないから一緒に食べれない。

そのため1人で食べる。

………… つまらんな。

午後2時

火蓮「やばい、5が無いよ～。」

この学校は成績が1～5まである。5が無いのは最悪だ。

遊佳「まつたぐ、あれほど勉強しなつて言つたでしょ。」

火蓮「うー、じゅあ遊佳はビリだつた?」

遊佳「5教科オール5。」

火蓮「聞くんじゃ無かつた!!!!」

はあ、まつたく騒がしい奴。

真紅「何してんだ?」

遊佳「あれつ、レッジじゃん。どうしたのこんなどりで。また部活でうまくいかなくて先輩に「たるんでるぞーーー」グリウンド100周走つてこいーーー!」

なんて言われたの?」

真紅「んなわけあるかーーー第一そんな事言われたことも無いわーーー!」

遊佳「冗談冗談。」

真紅「つたぐ。それよりお前ら部活は?」

遊佳「サボつたに決まつてんじゃん。」

真紅・火蓮「勝手に決めるなーーー!」

遊佳「息合つてんじやん。」

やつぱりここからがつむらのせ楽しいや。（笑）

真紅「それより、また今年もやるのか？」

火蓮「やるに決まってるだろ！…」

遊佳「じゃ、明日レッズの家でね。」

真紅・火蓮「OK！…」

そんなわけで今日も1日が終わった。
明日が楽しみだ。

次の日

遊佳・火蓮「お邪魔しまーす。」

真紅「邪魔するなら帰れ。」

遊佳「うん、分かった。それじゃ。」

真紅「ちよつ、待てよ。嘘に決まつてんだろーー！」

遊佳「冗談冗談。」

やつぱり楽しいや。（笑）

火蓮「よつしゃ、早速デュエルだーー！」

遊佳「黙れデュエル馬鹿ーー！順序つてものを考えろーー！」

火蓮「えー。」

まつたく、どこのガキだよ。

真紅「とこりでその大きな鞄何入つているの？」

遊佳「これだよ。」

火蓮「？何これ、箱？」

遊佳「開けてみな。」

火蓮が我慢しきれずにもう開けちゃった。
せつかちだな。

火蓮「うわあ～、これってケーキ？凄い。」

真紅「まさかの手作り？」

遊佳「そうだけど。後、これ。2人にプレゼント。」

火蓮「やつた、あたしの欲しかった極星だ！！！ありがとう…！」

真紅「こつちはチューニング・サポーターじゃん。サンキュー！！！」

遊佳「さて、それじゃ……」

遊佳・火蓮・真紅「「「メリークリスマス！～！」」

遊佳「クリッターをリリースして ブラック・マジシャン・ガ

ールをアドバンス召喚。

さらに 師弟の絆を発動。来い、

ブラック・マジシャン！』

火蓮 LP3000

遊佳 LP10000

遊佳

場 力オス・ソーサラー
マジシャン・ガール

ブラック・マジシャン

ブラック・

伏せカード 3枚

手札 4枚

火蓮

場 無し

伏せカード 3枚

手札 2枚

火蓮「何でこうなるの！？」

遊佳「念の為に 大嵐 発動！」

火蓮「負けた——————！」

まだまだだな。

残念だな。

火蓮「もう一回だ」

1時間後

遊佳「これで30連敗だよ。」

火蓮「くつそー。なんでだよ！――！」

真紅「次は俺だ！！」

遊佳「いいぜ。」

「「デュエル！！」」

真紅「先行貰つていいか？」

遊佳「どうぞ。あたしは後攻ね。後ライフは4000からのスタートね。」

真紅「じゃあ俺のターン、ドロー。」

俺は手札から ボルト・ヘッジホッグ を捨てて クイック・シンクロン を特殊召喚！

さらに ボルト・ヘッジホッグ の効果発動 「あなたの説明は回りくどくて長つたらしいから略して。効果ぐらいは知ってるから。」

分かったよ。 ボルト・ヘッジホッグ を特殊召喚！

レベル5の クイック・シンクロン に、レベル2の ボルト・ヘッジホッグ をクイック・シンクロン！

世界の平和を守るために勇氣と力をドッキング、シンクロ召喚！現れよ ブラック・ローズ・ドラゴン！！
カードを2枚伏せ、ターン終了だ。」

突っ込まないよにしたいが、やはり突っ込んでやる。

遊佳「チュー二ングの順番ちがうし。

それに、何でいちいち言つんだよ。しかもそれはパワーツール・ドラゴンのセリフだし。

今すぐエクストラデッキに入ってるパワーツールに謝れよ。失礼だろーが。」

真紅「えつ、何か、ごめん……。」

遊佳「よし。ならあたしのターン、ドロー。

何かごめんね。 火靈使いヒータ を召喚して ワンダー・ワンドを装備、そして破壊。」

真紅「何回この効果でヒータを殺してんだよー！」

遊佳「何そんなに怒つてんのよ。まさか、ヒータのことがすく「ん

なわけあるかよー!」まあそれは置こといて「置いておくなーーー!

「…」カードを2枚ドローする。
「無視すんな…！…！」

カードを3枚伏せてターンエンド。

真紅「つたく。俺のターンドロー。」

行くぜ！！！
ブラック・ローズ・ドラゴン
でダイレクトアーティ

火薬装甲「ニ、わあああ！！！」

煩い奴だな。

早く終わらせたい。

遊佳「ターンエンドか?」

真江ノ川ニシダラ。

遊佳「あたしのターン、ドロー。モンスターをセット、ターンエン

○T_o

真紅「よしあや、俺のターン、ドロー。

スピード・ウォリアー（ATK 900）を召喚。行け、伏

!

遊佳「ライトロード・プリーストジョニス（DEF 2100）

君は実に馬鹿だなあ。」

真紅 LP3700

真紅「それを呟つのは何回目や——！！
くそつ、ターンヒンド。」

遊佳「あたしのターン、ドロー。

ダーク・リゾネーター（ATK 1300）を召喚。
レベル4 ライトロード・プリーストジョンニスにレベル3 ダー
ク・リゾネータをチューニング。

シンクロ召喚！来い ハンシェント・フェアリー・ドラゴン（
ATK 2100）！！

さらに墓地の光属性、闇属性を除外し カオス・ソーサラー（A
TK 2300）を特殊召喚。

そして リロード 発動。手札2枚を戻し、その後2枚ドロー。」

は〜、事故った。仕方ない。
あんまり使いたくないけど。仕方ない。

遊佳「手札抹殺 を発動。あたしは2枚捨て、2枚ドロー。」

真紅「くつ、俺は3枚捨て、3枚ドロー。（せつかくいい手札だつ
たのに。）」

やつた、いいカードが来た！！

遊佳「あたしは魔法カード 一族の結束 を発動！！
さつきの手札抹殺で魔法使い族が落ちたからね。助かったよ。（い
つも使わないけど。）」

真紅「くつ、（伏せカードはミラフオだ。まだいける！）」

あいつのことだから多分ミラフオを伏せてるな。
だけどそれも無駄だぜ。

遊佳「リバースカードオープン魔法カード 二重召喚 発動。
これでもう一度召喚が出来る。後、伏せていた 魔法族の結界 を
発動。

サニー・ピクシー を召喚。 カオス・ソーサラー の効果。
ウォリアーさん、退場してください。」

真紅「そんな！？」

遊佳「まだだ。 レベル6 カオス・ソーサラー にレベル1 サニ
ー・ピクシー をチューニング。
来い エンシェント・ホーリー・ワイバーン
サニーちゃんの効果発動。」

真紅「サニーちゃんつてなんだよ。（気持ち悪い。）」

遊佳「今思いついた。まあライフを1000回復。」

遊佳 LP5000

遊佳「ホーリーワイバーンの効果。 攻撃力1300アップ。 さらに
大寒波 発動！！」

真紅「何つ…！そのカードは」

遊佳「そう、効果により魔法、罠カードは発動もセットも出来ない。次のあたしのドローフェイズまでね。さあ、とじめだ全モンスターでダイレクトアタック！！」

真紅「くそ…………！」

真紅 LP - 1200

真紅「つてか一族の結束意味ないじゃん…！」

遊佳「たしかにね（笑）」

火蓮「もう5時30分じゃん。」

遊佳「そろそろ帰らないと暗くなるね。」

真紅「じゃ、またな。」

火蓮「バイバイ。」

遊佳「それじゃ。」

これでクリスマス会は終わった。
時が流れるのは早いな。
もっと楽しみたかった。

遊佳「（どうかした？）

ナイト『転生前でも後でも主は主だ。』

ライティー『転生前はもつと楽しそうだったよ。』

アウス『確かに。』

あかり『…………つていう感じかな。
マスターって転生前も転生後も変わらないね。』

ナイト『いえ、何でもありません。』

遊佳『（わ、みんないへよ。）』

『『『はーーーー。』』』

あかり『やつぱしまスターはマスターだ。』

誰もこの時は気がついていなかった。
この先すぐに再開できると…………。

番外編クリスマススペシャル（後書き）

ではここで簡単にキャラ紹介。

森野 もりの
火蓮 かれん

性別 女

使用デッキ B.F.デッキ 極星デッキ

詳細

いつも遊佳と一緒にデュエルをするデュエル仲間。いつも突っ込んで行ってしまう。

葉月 はつき
真紅 しんく

性別 男

詳細

火蓮と同じく遊佳のデュエル仲間。3人のなかでは一番冷静である。あだ名でレッドと呼ばれている。

まあ、こんな感じですね。

遊佳「それでは感想やアドバイス等よろしくお願いします。

お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4279w/>

遊戯王 転生者の生きる道

2011年12月25日15時50分発行